

第3回草津市総合計画審議会 会議録

■日時：

令和6年7月12日（金） 14時00分～16時00分

◆場所：

草津市役所2階 特大会議室

■出席委員：

我孫子委員、植村委員、北村委員、窪田委員、肥塚委員、佐野委員、塚口委員、中西委員、堀井委員、三浦委員、村本委員、吉川委員、吉田委員

■欠席委員：

清水委員、下笠委員、中谷委員、西原委員

■事務局：

総合政策部 金森総合政策部長、山本総合政策部総括副部長、門田企画調整課長、
永田企画調整課課長補佐、三谷係長、山下主査、山田主査、川口主査、川端主査

傍聴者：

なし

1. 開会

●開会にあたり、事務局より挨拶

●事務局より確認事項

本日の審議会は、委員17名のうち13名が出席。委員の半数以上の出席により草津市総合計画審議会設置条例施行規則第5条第2号に基づき本審議会が成立していることを報告する。

村本委員は、本審議会の初回の出席。本審議会は公開を原則としている。会議進行は肥塚会長より願います。

2. 審議

(1) リーディング・プロジェクト（案）について

●事務局

<参考資料1～2について説明>

◎肥塚会長

リーディング・プロジェクト（案）の内容について、委員の皆様から御意見いただきたい。

○委員

資料2の「（仮称）DX推進プロジェクト」で、行政のデジタル化を行うと説明があったが、具体的な内容を教えていただきたい。

「にぎわい・再生プロジェクト」について、第2期基本計画（案）の7行目の「まち全体に公共交通ネットワークを形成するなどにより、市内の交通渋滞の緩和を図るなど、まちの魅力を向上させ」について、「など」で文章が繋がっており気になった。文章を分けた方がよい。また、公共交通ネットワークを形成しても、直接的には渋滞解消にはつながらないため、「～市外からの流入増加を図ります」に続いて、「道路ネットワークの充実を図り、まち全体に公共交通ネットワークを形成し、市内の渋滞緩和を図るとともにまちの魅力を向上させ～」というように、今、不十分な「道路ネットワークの充実」について追記してはどうか。

◎肥塚会長

委員御指摘のとおり、公共交通ネットワークと交通渋滞の話は違うので、道路ネットワークの記載をすべき。DXについて事務局より検討していることがあれば説明をお願いします。

●事務局

具体的な取組内容については検討中である。まずは、アナログでやっているものをデジタル化するうえでの点検から進める方針であるので、今年度以降の取組については、現時点では具体例を示せないことを御理解いただきたい。

◎肥塚会長

「（仮称）DX推進プロジェクト」については、ICTやデジタル化を超える次元で考えるためにリーディング・プロジェクトに入れるという趣旨なので、DX推進とはどのようなものであるかの考え方について示していただきたい。

○委員

各リーディング・プロジェクト（案）の最後の文章について、「まちをつくります」と記載してあるが、主語は誰になるのか。

●事務局

総合計画は、行政、市民、事業者が協働して推進していくことになるため、主語は行政だけではなく、「みんな」となる。

○委員

プロジェクト5だけが「まちを目指します」という表現になっていることは気になる。

プロジェクト2の「地域の支え合い推進プロジェクト」について、健康・福祉の視点が盛り込まれているが、「すべての人」や「誰も取り残さない」という言葉は大事な言葉のため入れていただきたい。健康日本21（第三次）では、環境の整備や、自然に健康になれることがキーワードになっている。個人の努力ではなく、環境を整えることが「誰も取り残さない」という言葉につながるのではないか。この原案を読んでいると、自分で頑張ることやお互い助け合うという言葉が多いが、住む人が自然に健康になれる環境づくりを行政が行うことも大切ではないか。「環境整備」や、「誰も取り残さない」という言葉があれば良いと思った。

○委員

2 ページのプロジェクト1「未来を担う子ども育成プロジェクト」について、子どもの成長のために一番大事なことは家庭だと認識している。少子化や核家族化する家庭の中で、子どもたちを皆で大切に育てていくことが大切と理解している。命のつながりがあってこそ、子どもたちが成長し、人や地域とのつながりが生まれてくると思う。第2期（案）の文面は、子どもたちが自分らしく成長すればよいとしか読み取れないので、何を大事にするかを入れるべきではないか。子どもたちが幸せの中で生きていくのではなく、子どもたちが自分らしく幸せと感じなければならない。子どもたちが、自分らしく夢や希望をもって、幸せを感じながら成長できて暮らせるように、社会全体で支えることが重要。子どもたちが勝手に成長するのではなく、命や人とのつながりの中で成長して、子どもたちが幸せを感じ、幸せになれる力につながらなければダメだと思う。

また、最後から4行目の「本市の強みを生かした教育」と書いてあるが、強みを生かした教育とはどのような教育なのか教えていただきたい。「生きる力」という言葉がよく出てくるが、「生きる力」とは何か。「生きる力」という言葉を使うと、何ををもって子どもを育てるかが見えにくくなる。子どもたちが命の大切さを感じ、人や仲間を大事に思いやりや感謝の気持ちを持ちながら自立する中で、心を育てることが生きる力だと思う。豊かな心を育てるために生きる力を養うことのような書き方になっていると思う。

◎肥塚会長

前段の文章は趣旨を反映できるように考えていただきたい。また、「本市の強みを生かした教育」とはどのようなことか事務局より説明をお願いする。

●事務局

本市では子どもたちの思考力、判断力、表現力を育むことや、持続可能な社会の作り手を育てることを目的に、スクールE S Dくさつプロジェクトを実施しており、地域と学校に共通する課題解決のために、教科で学んだ知識を活用して、地域と協働した学習を行っている。また、そのほか、本市の強みとしては、従来からICT教育や英語教育にも力を入れている。

○委員

2 ページの「未来を担う子ども育成プロジェクト」については、1つ1つの言葉に対する裏付けがあるのか気になり、冒頭の文章に違和感がある。「全国的に少子化が進行する中、子どもや若者は一人ひとりが大切な存在」とあるが、少子化でなければ大切ではないとも捉えられるので、冒頭にこの書き方をすることは違和感がある。子どもが少ないから大切なわけではないと思う。

◎肥塚会長

委員の意見を踏まえ修正いただきたい。

○委員

2 ページの「未来を担う子ども育成プロジェクト」で、下から3行目に「子ども・若者の声や思いを聞きながら」とあるが、子ども・若者に対して具体的にどのように聞くのか。

意見としては、子ども・若者も社会参画する意識をもつことではないかと思う。最後の「(仮称)DX推進プロジェクト」について、これから内容をつめていくと承知しているが、保育現場はかなり遅れており、行政が主導してDXを進めていただく必要があると感じるのでよろしくお願ひしたい。

◎肥塚会長

「子ども・若者の声や思いを聞きながら」は広い意味では社会参画になるが、具体的に何があるか。

●事務局

子どもの声について、今年度、こども計画の策定を平行して行っており、そこでアンケート等により子どもの意見を伺っている。計画策定以降の子どもの声を聞く方法は、子ども家庭庁で子どもの意見を聞く方法を審議しているため、そちらを参考に展開する予定。あくまで、ここの記述は、今後に向けての姿勢を示す意味で入れており、具体的には今後検討していく。

○委員

まさに今、子育てをしている保護者であるが、今回の第2期基本計画(案)を見て、全体的にふんわりしており伝わってこない。特に中断の最後の「社会を創り出していく力」について、子どもたちが既にある社会に参加して変革させることはあり得ると考えているが、創り出すとは何か疑問を持っている。もう少し実際の施策に沿って、何をするのかというところを記載いただきたい。

●事務局

委員の意見を踏まえ検討するが、前提として、基本計画は、12年間の基本構想に基づき策定している。基本計画は今後4年間の方向性を示すもので、具体的な施策はこれに基づき、今後検討するものである。そのため、施策に基づいた書き方はここで書くべき内容とは違うものであると考えている。次回の審議会では、分野別の説明を行う予定で、ここではもう少し落とし込んだ内容になるが、ここでは、5つのリーディング・プロジェクトとして、各分野を横断して牽引していくことを示す記載内容となっている。

◎肥塚会長

ここの記載については、具体的な施策をまとめる方向や考え方を書いていくところのため、文章の抽象度が高くなっている。考え方や方向性で良い表現があれば入れていただきたい。具体的な施策は今後、第2期基本計画(案)で示す予定のため、その内容が出てきたときに、改めてプロジェクトの文面に戻るという考え方はある。

○委員

第1期基本計画と第2期基本計画(案)を並べて見ていると、第1期より掘り下げて詳しく前提条件を書いてあり、文末の「つくります」という表現は第1期と変わらないものになっている。目指すものは第1期と同じで、施策で、方法や仕方が変わっていくと想定している。その中で、DX推進プロジェクトは他の4つのプロジェクトとは別物のように感じる。なぜ5番目のプロジェクトとして入れる必要があるのか。これは、全体的な行政

の取組の中の考え方であると思う。ここに入れなくても当然、デジタル化・DXは駆使していかなければならない。基本計画が、絆や温かさ、つながりなどを重視しているように見受けるところに、クールなDXというものを持ってくることに違和感がある。けして反対しているわけではなく意見として共有する。

○委員

にぎわい再生プロジェクトで「多様で魅力ある企業の集積を促進」とあるが、地域の魅力向上のためには、企業をよそから持ってくるだけではなく、元から地域にある既存の企業の魅力を上げることも書いてあった方がよいのではないか。

●事務局

既存の企業については、中段の2段落目に、「地域の産業や資源等を生かした取組」のところで入れている。「多様で魅力ある企業の集積」は新たな取組として今回追加した。

○委員

DX推進プロジェクトで、「総合計画の取組を効果的に推進するためにはDXの推進が重要です」とあるが、DXはどのように重要なのか教えていただきたい。

●事務局

経営資源（人・物・資金・情報・時間）が制約されるので、行政事務を進めるにあたり、DXによってこの制約を解消し、質の高い行政サービスの提供につなげていく。今までの行政事務を補う形でDXに取り組んでいきたいと考えている。

○委員

今までやってきたことをデジタルで効率化することにより、効果的に進めると理解した。

◎肥塚会長

住民の利便性向上と業務効率化は2大課題で、自治体のDX推進が重要だとされている。これまでのデジタル化と違う水準でやる必要があると国も打ち出しており、本市でも取り組むことになるが、これはとても難易度が高い。先ほど一人も取り残さないことが指摘されたが、すべての住民に対して行うことになるので、企業や学校のDX以上に難易度が高い。ここに果敢に取り組んでいこうという決意表明と認識している。

○委員

「絆」という言葉を総合計画で多く使われており、今回のリーディング・プロジェクトでもこの言葉が使われている。東日本大震災のときにこの言葉が使用されていたが、この言葉は常時使うものではないのではないかと議論がされ始めている。もともと「絆」は、家畜や動物が逃げないようにつなげとめておく綱のことをいう。この言葉をずっと使う必要はあるのか気になる。

◎肥塚会長

委員御指摘のとおり、もともとは東日本大震災以降の流れの中で、4年前の第6次総合計画策定のときに使用した言葉であると認識している。ただし、将来ビジョンや第6期総

合計画全体で貫通している言葉なので、第2期で変えることは難しいのではないかと。将来ビジョンのところでは4年前に決めたことなので、よほど何かまずいという話にならない限り、これを変えることについて議論することは難しい。

○委員

3ページの「地域の支え合い推進プロジェクト」で「丸ごと」の表現が読んでいて気になった。自身も健康推進にいろいろ関わっているが、そこでは「地域の大きな輪」や「健康の大きな輪」など「輪」という言葉をよく使っている。「丸ごと」ではなく、もう少し温かい言葉で伝わるような「健康の輪」、「地域の輪」などのやさしい言葉はなかったのか。

◎肥塚会長

この言葉は、厚生労働省が地域共生社会を象徴する言葉として「我が事・丸ごと」というフレーズで使用しているもので、ここも、その言葉を引用していると認識している。自身は経緯を知っているので違和感を持たなかったが、その経緯を知らずに読むと違和感があることは理解できる。検討できるかわからないが、初見でぱっと見たときにそのように受けとらえられることは理解した。

(2) ウェルビーイングについて

●事務局

<資料1、資料3について説明>

◎肥塚会長

ウェルビーイング指標を総合計画の進捗を図るうえで活用していきたいということについて、何か意見はあるか。

○委員

内閣府のデジタル田園都市関連で出てきた指標と認識している。主観指標はアンケート調査をしないとわからないので、既に調査をしたかと思うが、何項目の設問だったか。

●事務局

主観指標で50項目となる。

○委員

何人くらい調査したのか。今後は定期的には実施することになるのか。

●事務局

国が別に行う全国調査もあるが、全国調査とは別に、市民3,000人を対象に市の個別調査アンケートも実施している。今回の調査では、1,000件を少し超える回答を得た。この参考指標として指標は毎年度見ていくことになるので、毎年度、アンケートを実施する予定である。

○委員

客観的指標は従来の統計指標を使うので、年に1回ずつは結果が出てくるという認識か。

●事務局

客観指標は全国の自治体が使えるようにデジタル庁でサイトが準備されている。統計の調査が5年に1回、4年に1回などそれぞれスパンがあるので、そのスパンに合わせて客観の数字は変わっていく形になる。

○委員

主観指標は市の政策だけではなくいろいろな世の中の動きで変わるので、必ずしも政策の効果を見られるわけではないと思うが、全体の動きを見る一つの手がかりとしては良い。

◎肥塚会長

他に意見はあるか。進捗管理の参考指標にするということで良いか。

○一同：異論なし

(3) 地方創生について

●事務局

<資料1、資料4について説明>

◎肥塚会長

国の方針で、総合計画と一体的に取り組んでいかなければならないので、この方向で進めることでよいか。何か質問はあるか。

○一同：異論なし

(4) 第2期基本計画の構成について

●事務局

<資料1、資料5について説明>

◎肥塚会長

何か意見あるか。この構成について意見はあるか。

○一同：異論なし

3. 閉会

●閉会挨拶